



戦争をさせない
Anti-War Committee of 1000
1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.28

(2015年7月17日号)

〒101-0063 東京都千代田区

神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921

■【衆院特別委で強行採決 戦争法案可決】 7.15 強行採決徹底糾弾！抗議集会に数万人



特別委員会の強行採決に「断固糾弾！」「今すぐ廃案！」の怒りの声を国会にぶつけた（国会正門前）

7月15日正午過ぎ、衆議院安保特別委員会で「安全保障関連法案（戦争法案）」の強行採決が行われました。前日（14日）深夜まで及んだ日比谷野音での大集会とデモの直後にもかかわらず、この日は朝から国会正門前に抗議の人々が集まり、炎天下の中で緊急座り込み行動が行われました。正午には参加者の数が約2300人にのぼり、12時30分頃に強行採決の情報が入った瞬間には、参加者から一段と大きな激しい怒りの声が上がりました。夜は国会正門前で、総がかり行動実行委員会と学生団体SEALDsの協力で大集会が行われ、19時半時点で2万5千人が詰め掛けました。市民の怒りは頂点に達し、強行採決を弾劾する「強行採決徹底糾弾！」「戦争法案今すぐ廃案！」などのシュプレヒコールが夜中まで続けられました。



強行採決に怒りの声を上げる参加者（国会正門前）

強行採決を徹底弾劾し、声が枯れるまで怒りのシュプレヒコールを上げ続けた9条壊すな！実行委員会の菱山南帆子さん（国会正門前）



夜になってもデモの参加者は増え続け、強行採決に対する怒りの抗議に参加した人々は数万人に上った（国会正門前）



市民の怒りは頂点に達し、デモは決壊して車道に溢れ出した。規制線を張って押し返そうとする警察官と激しく対峙した。（国会正門前）



■【衆院本会議で強行採決 戦争法案可決】

7.16 衆院本会議可決徹底糾弾！抗議集会

7月16日（木）は、午後の衆議院本会議での採決に合わせて、国会前で抗議行動が行われ、2000人以上が詰めかけました。

昼の行動では厳しい規制が敷かれ、抗議デモを分断する鉄柵が歩道上にまで設置されたため、これを撤去するよう抗議し、警察官と押し合いになりました。1000人委員会事務局長の内田雅俊弁護士や9条壊すな！の高田健さんらが、「鉄柵設置は不当だ！」として警官らに抗議し、ついに鉄柵を撤去させました。

この日も夜まで大集会が開かれ、2万人以上が参加しました。参議院での闘いで必ず廃案にし、安倍政権を退陣に追い込む決意を固め合いました。



台風が迫る雨の中、衆議院本会議の強行採決に怒りの声を上げた（国会正門前）



写真左…鉄柵撤去を求め、体を張って警察官に抗議する集会参加者ら（国会正門前）

写真下…抗議デモを鉄柵で囲おうとする警察官と鉄柵撤去を求めらる集会参加者（国会正門前）



写真左…夜まで多くの人が国会前に押し寄せて、戦争法案可決に徹底弾劾の声を上げた

■7.15・16 集会参加の国会議員・呼びかけ人らの発言

【7月15日】

岡田克也議員（民主党代表） 「これからが闘いの始まりだ。国会会期末までの2ヵ月間、しっかり闘ってこの憲法違反の法案を撤回に追い込もうではないか。憲法による平和主義をしっかり守り抜くために力を合わせよう」

辻元清美議員（民主党・安保特別委員） 「中谷大臣や安倍総理が答弁できずに、100回以上委員会が止まったという事実をしっかりと周りに広めてほしい。存立危機事態というが、安倍総理そのものが日本に危機をもたらしているではないか」

吉田忠智議員（社民党党首） 「先ほど野党5党の党首が会談し、一致して廃案に追い込むことを確認し合った。安倍総理自身が国民の理解が進んでいないと言いながら強行採決に踏み切った。強い怒りを持って皆さんと一緒に抗議したいと思う」

志位和夫議員（共産党委員長） 「戦争法案が特別委員会で強行採決されたが、国会で数を持っているからといってゴリ押しする権利は誰にもない。これは国民主権の原理にも反する。私どももスクラムを組んで頑張り抜くことを誓う」

山口二郎さん（法政大学教授） 「自民党のおごりや政治の劣化、学問の軽視といった政治全体の問題が明らかになっている。安保法制は日本の自由や民主主義を脅かすこうした問題の第一歩なのだとすることを理解し、今ここから徹底的に闘っていく必要がある」

飯島滋明さん（戦争をさせない1000人委員会事務局次長・名古屋学院大学教授） 「日本が攻撃されていなくても、いくらでも武力行使できる、それが今回の法案の内容だ。これでは時の政府に自由に戦争する権利を与えてしまう。これが憲法9条違反でなくて何なのか」

【7月16日】

枝野幸男議員（民主党幹事長） 「民主主義とは単純な多数決なのか。選挙で勝てば何をやってもいいのか。本当の民主主義とは国民の声に耳を傾けて行うものではないのか。この強行採決は多くの国民が問題に気付くきっかけになるはずだ」

福島みずほ議員（社民党副党首） 「日本の領土領海を守るのは個別的自衛権だ。集団的自衛権の行使とは大国が小国に対して泥沼の侵略戦争を仕掛けるものではないのか。日本人の命と暮らしを守るなどでたらめだ。国民は違憲の法案を許さない。その声を大きく広げていこう」

玉城デニー議員（生活の党と山本太郎となかまたち） 「安倍政権が退陣するまで、必ず辺野古を守り抜く。憲法は国民のものだ。憲法尊重義務が課されている総理大臣が憲法を壊そうとすることなど絶対に許すわけにはいかない」

小池晃議員（共産党） 「どんなに政府が説明しても憲法違反の法律が憲法に合致するわけがない。政府は説明不足だと言うが、説明しようもないのがこの法案だ。参議院は野党の勢力が大きい。何としても参議院でこの法案を廃案にする」

高野孟さん（ジャーナリスト） 「私は60年安保の時にもこの場所でデモの渦の中にいた。その時も強行採決の後、デモが大きく広がり始めた。8月には70年談話や川内原発再稼働、TPPといった課題が一気にやってくる。安倍政権に反対する運動は大きくなるはずだ」

内田雅敏さん（戦争をさせない1000人委員会事務局長・弁護士） 「私はこれまで憲法や村山談話、日中共同声明が日本の平和資源だと思っていた。しかし今日、ここに集まった皆さんこそが平和資源だと確信した」

高田健さん（解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会） 「自民党の谷垣幹事長は、今日の記者会見で我々の抗議行動を『比較的穏やかだ。かつての方が自分のお金で参加している人が多かったように思う』とまで言った。この運動を見ているならこんなでたらめを言えるはずない。今ほど自立した個人が自分の意志で参加している運動はない。運動をさらに大きくして目に物を見せてやろう。もう自民党にこんなことを言わせないために、より一層頑張ろう」

【声明】戦争法案の衆院での強行採決を糾弾し、あくまで廃案を求める

政府・与党は7月15日、衆議院安保特別委員会で戦争法案を強行採決し、続いて本日、本会議でも強行採決を行った。憲法違反が明白な戦争法案の成立を強行することは、憲法の尊重擁護義務を負う政府と国会議員が自ら憲法を無視するという立憲主義の否定であり、私たちは断じて許さない。

戦争法案は、集団的自衛権行使をはじめ、いつでも、どこでも海外で自衛隊が武力行使する道を一気に拡大するもので、名実ともに日本を戦争する国に変えてしまうことになる。この危険な大転換は、先に改定された日米防衛ガイドラインが示しているように、米国の世界戦略に日本を組み込み、自衛隊を米軍とともに戦う戦力とし、あわせて日本の軍事大国化を誇示しようとする誤った路線である。それは、安倍首相が言うような「平和と安全」ではなく、日本が国際紛争に武力介入し、自衛隊員を殺し殺される状況に投入し、日本もまた攻撃対象になることを意味する。

この間、私たちは、さまざまな差異を超えて大きな共同を実現した「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動」として、連日のように国会周辺で、街頭で、ネットで、「戦争法案絶対反対」「いまずぐ廃案」の行動を展開し、継続してきた。その声は、憲法学者や研究者、弁護士、自治体議会などだけではなく、母親や学生、子どもたち、労働者、宗教者などの広範かつ多様な行動の全国的なうねりとなっている。

世論の圧倒的多数が戦争法案は憲法違反と受けとめ、政府の説明に納得できないとし、今国会での成立に反対している。今回の強行採決は、この声に圧倒され焦った政府・与党が、これ以上矛盾が露呈し、批判が高まることを恐れ、議席数だけに頼って押し切ろうとする暴挙である。

しかし、私たちは、憲法と国民の意思において、そして何より平和といのちと人権というかけがえのない価値において、安倍政権の暴走を許さず、あくまで戦争法案の廃案を求めて奮闘する。この心を同じくする全国にみなさんに、さらに大きな声をあげ、さらに大きく多様な行動を起こすよう呼びかける。



強行採決に怒りの声を上げ続ける市民ら（7月15日、国会正門前）

2015年7月16日
戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

■強行採決反対！7.14 大集会に2万人超

戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、7月14日、日比谷野外音楽堂で戦争法案に反対する大集会を開きました。強行採決が間近に迫る中、2万人を超える人々が結集し、強行採決の反対と法案の撤回を訴える抗議の声を上げました。また、集会と同時に国会に向けた請願デモも出発し、国会前ではデモ隊を迎える野党の衆参両議員たちと、エールを交わしシュプレヒコールを上げて、戦争法案の廃案に向けた決意を固めました。請願デモの行列は深夜22時過ぎまで途切れることなく、戦争法案の強行採決阻止に向けた人々の怒りの声が響き渡りました。



参加者は一斉にプラカードを掲げて抗議した（日比谷野外音楽堂）



2万人を超える参加者が日比谷野音とその周辺を埋め尽くした



佐高信さん（評論家） 1902年に日英同盟を結んだ際、日本の仮想敵国はロシアだった。ご存知のように、その二年後に日露戦争が起きた。1940年には日独伊同盟を結び、その時の仮想敵国はアメリカだった。その後アメリカとの戦争に入った。安倍さんは今、中国を仮想敵国にしている。安倍政権を倒さなければ戦争に突入してしまう。皆さん、この戦争法案をなんとしてもストップさせましょう。

佐藤学さん（学習院大学教授） 私たち「安全保障関連法案に反対する学者の会」も強い憤りを表明している。学者の会は1ヶ月ほど前に結成され、現在9766人の賛同人がいる。各党への請願行動も行ってきた。現代の戦争の犠牲者の85%は民間人だ。しかもその最大の犠牲者は子どもたちで、湾岸戦争以来、命を失った子どもは250万人にのぼる。この殺し殺される関係の中に、日本の若者たちを送るわけにはいかない。私たちはこんな時代を迎えるために働き闘ってきたわけではない。皆さん、戦争法案を廃案にするまで共に頑張りましょう。





枝野幸男議員（民主党幹事長） 政治家が公の権力を行使できる根拠は、選挙で選ばれたからではない。憲法によって選挙で選ばれた人間に権力を一時的に預けると決められているからだ。政治家は国民の声と憲法によって権力を使わせて頂く。そうでなければ、自らの存在を自己否定することになる。集团的自衛権を違憲と言ってきたのは、歴代の自民党政権である。自らの存在の大元である憲法を一方的に変えてしまえば、権力の正当性自体が失われる。もはや安倍内閣に権力を持つ正当性はない。立憲主義と民主主義を守るために、しっかりと闘っていくことを誓う。

福島みずほ議員（社民党副党首） 安倍内閣は集团的自衛権を初めて合憲とした戦後最悪の内閣だ。憲法を憲法と思わない内閣には退陣してもらおうではないか。正直に多国籍軍と共に戦争をすればいいのに、国民の命と平和を守るといって、あたかも個別的自衛権のようなデマゴギーを言うから支離滅裂なのだ。石破さんは、「自民党は感じが悪い」と思われている」言った。その通りだ。国民の力で戦争法案を成立させず、憲法を踏みにじる安倍内閣を倒していきましょう。



山下芳生議員（共産党書記局長） アメリカの戦争に武力行使を持って参戦することなど絶対に認めることはできない。これらの法案はすべて日本を海外で戦争することができる国にするものだ。国民の6割が、そして憲法学者の9割がこの法案は違憲だと考えている。違憲の法案をどんなに審議しても合憲にはならない。今、年配の世代が若い世代とスクラムを組んで立ち上がっている。どんなに国会内で多数派をとっても、国民の中に息吹く平和と民主主義のエネルギーを抑えることはできない。より一層運動を広げ戦争法案を阻止しようではないか。

主濱了議員（生活の党と山本太郎となかまたち副代表） 違憲の戦争法案を出した自民党がまずは取り下げるべきだ。取り下げないのであれば、私たちが廃案に追い込むしかない。そのためには野党が一致して、この法案は憲法違反だと訴え、国民の世論を盛り上げていく必要がある。反対の世論を100%に近づけていこう。



落合恵子さん（作家） 私たちは明るい方向へ向かって歩いているのだから、明るく闘い続けよう。私たち一人一人の市民の喜びと誇りは何なのか。人権や平和や命を踏みにじるものと闘うことが私たちの

集会後は22時過ぎまで国会請願デモの行列が続いた

誇りだ。この誇りを最後まで持ち続けよう。マスメディアの調査によれば反対の数が賛成の数よりも上回っている。絶対に私たちの未来を安倍政権には渡さないことを約束しよう。今日7月14日はフランス革命の記念日でもある。私たちも今日からもう一度何度でも歩き出していこう。そして、この日を私たちが独裁政権を倒していく記念日としよう。私たちに出来ることは何でもやり、廃案に追い込んでいきましょう。



衆・参の議員面会所前で野党国会議員らとエール交換

■【中央公聴会】7.13 抗議行動

戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、7月13日、衆議院第二議員会館前で「戦争法案反対！強行採決反対！衆議院特別委員会中央公聴会抗議行動」を開きました。この日に開催される戦争法案を審議する特別委員会の中央公聴会に合わせて、真昼の炎天下の中、集まった市民らが法案の強行採決に反対する抗議の声をあげました。また、国会議員の方々も参加し、アピールを行いました。公聴会終了後には、公聴会で公述した山口二郎さん（法政大学教授）と小澤隆一さん（東京慈恵会医科大学教授）が駆けつけ、報告とアピールを行いました。



中央公聴会に抗議する参加者（衆議院第二議員会館前）



山口二郎さん（法政大学教授） 今回の公聴会には5人の公述人が出席し、そのうち与党側からは元外務省の方と国際政治学者の2人が出席した。これは政府・与党が憲法問題はもう諦めたということだろう。何を言っても勝てないと分かっている。そこで国際政治学者を呼んで、安全保障環境の変化という点だけで安保法案を説明しようとしていた。しかし全く説得力がない。日本の周囲の問題は個別的自衛権で対応できる。だからなぜわざわざ集団的自衛権を使うのかという、法律の出発点のところについては話がなかった。今から55年前に市民がこの近辺に集まって、岸内閣を退陣に追い込んだ。私が公聴会で言ったことの一つは、それが戦後日本の歴史を作ったのだという事実を見よ、ということだ。あの時に市民が改憲の野望を挫いたから戦後日本の平和があった。そのことを昔の自民党は分かっていた。今のあなた方は一体どうしたんだ、そういう話を自民党にした。法案を今週内に衆議院通過させるために色々な動きがあるだろうが、私たちは世論を作り最後まで抵抗しなければならない。55年前と状況は段々と似てきた。皆さんと共に国会の外で世論を高め、法案阻止のために全力を尽くしていく。



小澤隆一さん（東京慈恵会医科大学教授） 自民党副総裁の高村さんは、憲法学者は9条2項にこだわり過ぎだと言った。しかし言葉は文化であり、考え方やルールを伝えるものなので、その言葉の使い方を間違っている政府が現れた時には、言葉の使い方を知っている人間がちゃんと指摘しなければならない。そうでなければ自分たちの責任は果たせない。そういうことを今日の公聴会の冒頭で話した。日本は後方支援の際、武

力行使はしないとやっている。ではその結果、後方支援中の自衛隊員が捕まったらどうなるか。捕虜にはならない。日本政府は捕虜扱いをしてくれない。するとどうなるか。武器を持った民間人がいるはずがないので、捕まったら最後、捕虜でも民間人でもない、テロリスト並みの扱いになる。勝手に戦争に参加している人間という扱いになる。こんな扱いを自衛隊にさせて平気でいられる政治家を私は理解できない。私は9条の下では自衛隊は違憲だと主張する憲法学者だ。しかし、自衛隊員の命と暮らしは絶対に守らなくてはならない。暑い日が続くが、この法案を廃案にするまで頑張ろう。

■7.9 戦争法案反対 国会前連続集会（第8回）

7月9日、戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、衆議院第二議員会館前で第8回目となる「戦争法案反対国会前連続集会」を開きました。雨にもかかわらず、多くの市民が参加し、戦争法案の強行採決に反対する抗議の声を上げました。集会には国会議員や大学教授なども多数参加しました。

民主党の寺田学議員（安全保障特別委員）は、「もう法案の審議は十分ではないかと、与党幹部の方々が訴えている。しかし政府与党が正面から質問に答え、その答えを通じて国民に理解してもらおうと



小森陽一さん

という前向きな時間は、一分一秒たりともなかったではないか。政府与党がたくらむ採決を民意によって廃案に追い込む。そのために党派を超えて頑張っていきたい」とアピールしました。また、9条の会事務局長の小森陽一さん（東京大学教授）は、「この政権を打倒するまで闘うことをまず表明したい。9条の会は全国津々浦々で、まず地元からしっかりと運動を繰り広げていこうと提起して動いてきた。例え一人であっても運動はできると確信している。あらゆる方法を使って運動を進めていきましょう」と強く訴えました。

立憲デモクラシーの会の呼びかけ人の中野晃一さん（上智大学教授）は、「新しい運動がたくさん起こると、長いこと平和運動に携わってきた人々が当たり前になってしまふ。しかしそういう人々がいて今の運動がある。政治学者ではなく一人の子どもを持つ親として、雨の中ここに足を運び、声を上げてくれる皆さんに感謝したい。安倍政権の暴挙を国民は絶対に許さないということを皆でわからせましょう」と訴えました。



雨にも負けず抗議のシュプレヒコールを上げた



中野晃一さん



■「戦争法案」を葬ろう

7.9 院内集会

立憲フォーラムと戦争をさせない 1000人委員会は7月9日、「『戦争法案』を葬ろう 7.9 院内集会」を参議院議員会館で開催しました。参加者は300人を超え、国会議員も多数参加しました。集会では、はじめに立憲フォーラム代表の近藤昭一議

員（民主党）が挨拶し、戦争法案を廃案にする決意を表明しました。その後、民主党の小西洋之議員と憲法学者の樋口陽一さんが講演を行いました。

小西洋之議員は、「安倍政権を支える官僚は自分たちがインチキをしているとわかっている。平和への思いだけでなく、インチキをもっと指摘すれば官僚も自分たちのやっていることが怖くなる」と述べ、そのインチキの具体例として政府が行った昭和47年見解の読み替えをあげ、その問題点を明快に説明しました。

樋口陽一さんは、「ここ1ヵ月、若い人が声をあげている。自分たちが作ってきた戦後日本を一気に押し流すことが怒りとなっている。日本国民は現政権を三度も選択した。皆さんは違うと言っても言い訳にはならない」と訴え、さらに「自民党の改憲案の問題点は二つある。一つは、日本は日本だという主張。現在の憲法はその反対で『国民の国民による国民のための政治』という人類普遍の原理を掲げている。改憲案はその現憲法の前文をすべて切り捨て、基本的人権の根幹を否定するものだ。二つ目は、明治以来日本が築き上げてきたものを全て壊してしまうこと。改憲案は『公共の福祉』がばっさりと削られ、『経済成長を通して国の活力を増大させる』という条文が入っている。これは強いものが繁栄しそのおこぼれを弱者がもらうという新自由主義の考えだ」と批判を展開しました。



樋口陽一さん

集会の最後に、民主党の辻元清美議員（安保法制特別委員会）が駆けつけ、「内閣法制局長官の答弁が歴代の長官と食い違うのはおかしい。今、存立危機事態にあるのは憲法だ。国会の中で徹底抗戦していきたい」と訴えました。



47年政府見解の資料を説明する小西議員

■みなさんからのメッセージ

- 安全保障関連法案の与党の審議の進め方には腹が立ちます。将来、自衛隊員のなり手が少なくなると徴兵制が復活したとき、今の10代、20代の子どもたちがこんな審議で戦場に行かなければならないのかと思った時のことを考えると、いたたまれません。自民党は子どもたちがどう考えているかに思いを巡らせているのでしょうか。

（鹿児島県・男性）



炎天下の中、強行採決に抗議する参加者ら（7月15日、国会正門前）

- 今年は戦後70年。70年の節目だからというわけではないけれど、あらためて平和について考えるべきだと私は思います。散っていった命が無駄にしてはいけません。もう散らす命はいらない。だから私は戦争をさせない。
- （埼玉県・女性）

- 「数」の力で、すべて押し切る安倍だが、その「数」は、本来安倍とまったく主張が違はずの公明党が選挙協力して増加させたという矛盾！公明党も批判されるべきだ！

■集会・活動スケジュール

7月17日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。行動の詳細は1000人委員会ホームページ、または「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」のウェブサイト <http://sogakari.com/> をご覧頂くか、事務局までお問い合わせください。

- 7月 18日(土) 13時00分～ アベ政治を許さない！！ 同じポスターを全国一斉にかかげよう
場 所：国会正門前(12時45分からリレートーク)
参加予定：澤地久枝、落合恵子、神田香織、鳥越俊太郎、
渡辺一枝、石坂啓ほか
詳 細：<https://sites.google.com/site/hisaesawachi/>
- 7月 21日(火) 18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動
- 7月 23日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第10回)
場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 26日(日) 14時00分～15時30分 「とめよう！戦争法案 集まろう！国会へ」
7.26 国会包囲行動
場 所：国会議事堂周辺 ※1000人委員会は議員会館側
- 7月 28日(火) 18時30分～ 戦争法案反対！ 7.28日比谷集会(仮称) ※集会後デモ
場 所：日比谷野外音楽堂
- 7月 30日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第11回)
場 所：衆議院第2議員会館前
- 8月 4日(火) 18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動
- 8月 6日(木) 18時30分～19時30分 戦争法案反対国会前集会(連続行動第12回)
場 所：衆議院第2議員会館前
- 8月 11日(火) 18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動
- 8月 13日(木) 18時30分～19時30分 戦争法案反対国会前集会(連続行動第13回)
場 所：衆議院第2議員会館前
- 8月 18日(火) 18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動
- 8月 20日(木) 18時30分～19時30分 戦争法案反対国会前集会(連続行動第14回)
場 所：衆議院第2議員会館前
- 8月 25日(火) 18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動
- 8月 27日(木) 18時30分～19時30分 戦争法案反対国会前集会(連続行動第15回)
場 所：衆議院第2議員会館前
- 8月 30日(日) 14時00分～15時30分 「とめよう！戦争法案 集まろう！国会へ」
国会包囲行動
場 所：国会議事堂周辺

※以降の予定は、ホームページ等で随時アップします。

戦争はすべての季語を破壊する

へいわとはありのままにてわらうこと

平和とは明日の自分をおもうこと

「東京新聞」連載の「平和の俳句」から選んだ三句である。

安倍政権が強行しようとしている戦争法案に、私たちはひとりひとりとして強く反対したい。

戦争中に渡辺白泉という俳人は「戦争が廊下の奥に立ってゐた」と詠んだが、いま、戦争は土足で玄関から入ろうとしている。

「万歳とあげて行った手を大陸において来た」（鶴彬）とならぬよう、私たちは、いま、声をあげる。

とめよう！戦争法案 集まるう！国会へ

**戦争法案廃案！
強行採決反対！大集会**

7月14日(火) 18:30~19:30

7月28日(火) 18:30~19:30

場所: 日比谷野外音楽堂
※集会後、デモ

**強行採決反対！
国会正門前行動**

7月15日(水)・16日(木)

・17日(金) (予定)

場所: 国会議事堂正門前

**戦争法案反対！
国会包囲行動**

7月26日(日) 14:00~15:30

場所: 国会議事堂周辺

◎このほかにもさまざまな集会・行動を予定しています。詳しくはウエブサイトをご覧ください。

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会 <http://sogakari.com>

住所 〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-21-6-301

連絡先 戦争をさせない 1000 人委員会〈Tel 03-3526-2920〉／解釈で憲法 9 条を壊すな！実行委員会〈Tel 03-3221-4668〉／戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター〈Tel 03-5842-5611〉

この広告は多くの方々からの賛同で掲載されました。引き続きご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

振替口座 郵便振替口座番号: 00120-7-634378 口座名称: 総がかり行動実行委員会
ゆうちょ銀行口座: 〇一九店/店番 019 当座 口座番号: 0634378



7月12日、朝日新聞・東京新聞に掲載された総がかり行動実行委員会の意見広告

「戦争をさせない全国署名 2015」 第3次締め切り：8月31日

昨年みなさんをお願いしてきた「戦争をさせない全国署名」は、合計 257 万 264 筆（追加提出分含む）集まりました。新たに呼びかけている「戦争をさせない全国署名 2015」は、第1次集約で 165 万 8955 筆を6月に提出しました。現在、第2次集約中ですが、さらに延長して第3次集約の締め切りは8月31日（月）です。第3次集約分は9月中旬に提出予定です。たくさんの署名をお待ちしております。